

## ベトナムで鹿児島映像ツアー人気 ～観光地紹介と寿司作り体験セットに

鹿児島市の繁華街を歩くと、中国語や韓国語の会話が耳に入ってくる。振り返ると、特産品を手にした親子連れや若いカップルが珍しそうに店をのぞいていた。スカーフで頭髪を覆ったイスラム教徒らしい女性も目に入った。1年前の冬のことだ。

新型コロナウイルスの感染拡大は、街の雰囲気を一変させた。鹿児島空港から外国人観光客の姿が消え、繁華街では休業する店が相次いでいる。都市部だけではない。かつては香港や中国からの観光客が茶畑を楽しそうに散策する姿を目にできていた。

なんの変哲のない桜島の海岸へ、大勢の外国人が小さなスコップを手に下りていく姿に驚いたことがある。波打ち際には、ほんの5分ほど掘るとお湯がわき出してくる。その穴に足を浸けているのだ。自分だけのマイ足湯である。ぽかぽかと足元から温まりながら、海をぼーと眺めるのが至福の時だという。コロナは、そんな光景も奪っていった。

アフターコロナに向けて、海外の鹿児島ファンを育てられないか。鹿児島県観光連盟が旅行社と手を組んで東南アジアの寿司店で開催するツアーが、人気を呼んでいるという。寿司作り体験をセットにした新スタイルのツアーだ。

まず、寿司店のモニターに鹿児島空港を出発するバスの映像が流れる。車窓から桜島を望みつつ、ガイドが鹿児島観光の魅力をPR。世界文化遺産の島津家別邸・仙巖園では、美しい庭園を散策する風景が映し出される。

参加者のお目当ては昼食時間。ここからは映像ではなく会場の寿司店で行う。板前から握り方を教わり、自ら握った寿司をほおぼることができる。入浴剤を小さな木樽に入れ、温泉に浸かっているような気分で足湯を楽しむという演出もある。

ツアー料金は1人2,272円。ベトナムではすでに10回開催され、200人近くが参加した。コロナ禍が収束した後は、この参加者らはきっと本物を満喫しに鹿児島を訪れてくれることだろう。

南日本新聞社 業務推進部長 平峯幸児



寿司握り体験



足湯